

リベラル新潟の調査研究から 新潟県・起債許可団体転落、全国都道府県中ワースト2位

本年7月公表の「令和4年度決算」において、本県の実質公債費比率が18%以上となり、「起債許可団体」への仲間入りが確実となった。全国都道府県中ワースト2位である。

実質公債費比率の高まりについて県は、「実質公債費比率が高まると、福祉や教育といったほかの行政サービスに使用できる財源が少なくなります」とする。

他県に比べ福祉や教育などの行政サービス財源

1兆円以上減額

県は、令和4年度に起債許可団体に転落、令和20年度に実質公債費比率を17.9%とし脱却を目指すとしている。途中の20%越えも見越し17年間の平均は19%程度と思われる。全国平均は現状10%程度、本県との9%の違いを金額にかえると4500億円×9%=405億円/年となり、令和4年度から令和20年度までの17年間で6900億円となる。

さらに、令和21年度から令和30年までの10年間について、県が推計をした実質公債費比率と全国平均を基に算出すると約340億円/年、10年間で約3,400億円となる。

令和4年度～令和30年度までの本県の福祉や教育などの財源は、財政規模が同様で平均的な財政運営の他県に比べ「福祉や教育などの行政サービスの財源」が1兆円以上少ないことが明らかとなった。

実質公債費比率全国都道府県46位は 福祉や教育などの

行政サービス財源も46位

本県の実質公債費比率は、令和元年度、2年度、3年度とも全国46位である。令和20年度までの県の推計値から予測すると令和20年度までは46位ないしは47位がほぼ約束される。「実質公債費比率が高くても何が悪いのか」とうそぶく不勉強な議員もいるが、6月定例会、総務文教委員会においてリベラル新潟同僚議員が「実質公債費比率が46位ということは」「福祉や教育などの行政サービスに使用した財源が46番目ということか」と質問、財政課長からの答弁は「一般財源ベースの比率で考えればその通り」との答弁であった。さらに、連合委員会において、本県の教育予算が、全国46位との指摘もなされた。

小泉勝の思い 福祉や教育などの行政サービスが全国最下位クラスに位置することを許さない。

新潟県は全国5番目の広大な県土をもち、全国10番台前半の財源で予算を組み、15番目の220万人の人口が住んでいます。山も川も海もあり、豊かな農地からは美味しいお米や野菜・果物が実ります。暮らしやすい環境のもと、県民は何より温かで勤勉な人柄を持ち合わせています。新潟県のような指標は全国10番台から20番台せめて29番までに位置してほしいと考えています。見附の皆さんもそうお考えではないでしょうか？その本県財政の立ち位置が、実質公債費比率46位、将来負担比率45位はないだろうと私は考えます。硬直化した公債費実負担の大きさにより、福祉や教育などの行政サービスの財源水準が全国最下位クラスに位置することを小泉勝は許しません。引き続き県政の場で大きな声で財政健全化を叫んでまいります。

小泉勝「県政レポート」は見附市内に新聞折込などでお届けしています。ご近所、お知り合いでご覧になっていない方がおられましたら、お届けいたしますので小泉事務所にお知らせください。

SNSからも随時
情報発信中

小泉勝 公式
LINE @855erggs

友だち登録はこちらの
QRコードをスマホの
カメラから読み込むだけ!

facebook Instagram 公式HP

新潟県議会インターネット中継

一般質問 ▶

会議録の
検索と閲覧 ▶

※録画中継は、その会議の会議録がホームページで公開されるまでの配信です。

小泉勝

KOIZUMI

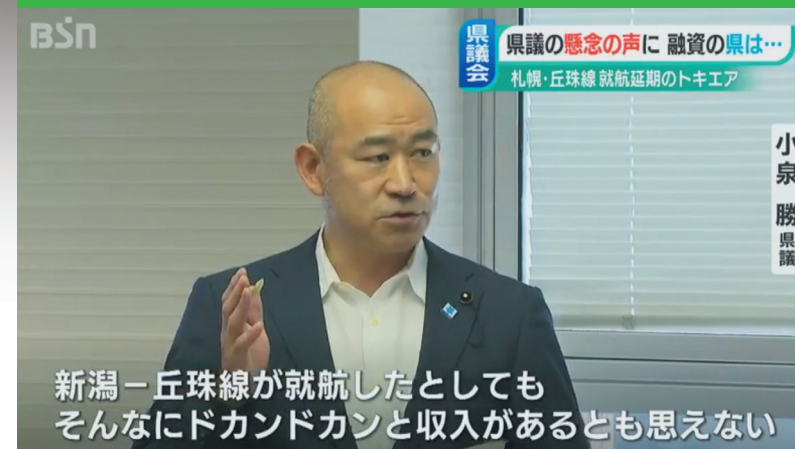
新潟県政レポート

令和5年7月 Vol.17

〒954-0046 新潟県見附市双葉町2-4
TEL:0253-62-1265 FAX:0253-62-7073
Eメール:kongetukoyoi@yahoo.co.jp

令和5年6月定例会県議会 6/27~7/14(会期は18日間) 建設公安委員会においての発言がTV放映!

『トキエア』の“就航延期”は経営に影響は無いのか?



新潟-丘珠線が就航したとしても
そんなにドカンドカンと収入があるとも思えない

【トキエア】

札幌丘珠線の就航時期は2022年の秋の予定でしたが、昨年秋→今年3月→6月と繰り返し延期され、現在の計画では8月10日(予定)となっています。

〈2023年7月5日(水)放送
BSN NEWSゆうなび〉

■BSN新潟放送 ホームページ→



7月5日、定例会県議会において「トキエア」に対し、繰り返しの就航延期による収支の影響を懸念し、発言する場面が夕方のニュース番組で放映されました。 >答弁の詳細は中面へ

KOIZUMI PHOTO DIARY



5/26 「協力隊経験を社会に還元する」シンポジウム



6/4 今町中之島大風合戦開会式



6/10 小泉勝県政報告会



6/13 見附市国際交流協会運営会議



6/17 にいがたSDGsフードバンクシンポジウム



6/17 今町地区敬老会



6/18 見附市防災訓練



6/24 見附市卓球バレー交流会



6/25 新潟県相撲大会



7/16 プレイラボみつけオープニングセレモニー



令和5年6月定例会県議会

常任委員会の質疑

建設公安常任委員会

— 小泉 勝の主な質問 —

土木部 令和5年7月4日

見附市の貝喰川河川改修工事

遺跡発見による工事の進捗について

質問
小泉 ● 貝喰川河川改修事業の工事の進み具合は？

貝喰川河川改修事業について、工事中に遺跡が発見されたが、それによっての工事の進捗を案じている。現在の貝喰川改修工事の進捗を伺う。

答弁
河川管理課長

令和2年度に放水路、調整池の整備に必要な用地約6万平米の買収を行い、事業用地の取得を行った。令和3年度には現地着工しており、これまで放水路の護岸、全体延長400メートルの内270メートルの整備を進めてきた。遺跡調査については見附市教育委員会が一昨年度から試掘調査を行っているが、今年度から遺跡の発掘調査に着手することとしており、6月末現地に遺跡調査に入ったと聞いている。

質問
小泉 ● 遺跡の発見により、工事への影響は？

遺跡調査による工事の遅れ、あるいは予算がそちらに割かれるというようなことはないのか。

答弁
河川管理課長

令和3年度に見附市教育委員会が行った試掘調査により遺跡が広範囲に確認された。令和4年度に市教育委員会と調整を図りながら、今年1月に遺跡の発掘調査計画が市から示された。これを踏まえ、遺跡調査と工事の2つを同時並行に実施する施工計画を今現在、検討を行っている。また、遺跡調査の現場作業によって工事の現場作業に遅れが生じないようにと考えている。遺跡調査費用は、河川工事の事業者である県が負担するが、遺跡調査と工事、両方同時に並行して実施することを考えており、費用の確保についても、今後検討する。

質問
小泉 ● 見附市の浸水被害を防ぐため、工事のスピードアップを！

見附市街地の多くの雨水排水をここに頼っており、地元見附市では、1日も早い完成を待ち望んでいる。しっかりと予算を確保してスピードアップを願うが、県の考えを伺う。

答弁
河川管理課長

見附市街地などの浸水被害を防止、軽減するための河川改修は、我々も重要な事業であると考えている。国5か年加速化対策を積極的に活用するなど、必要な予算を確保したいと思っており、遺跡調査と工事を可能な限り並行して進められるよう、また、治水安全度が段階的にでも早期に発現されるよう、効率的な工事計画を立て、工夫しながら事業実施していく。

度重なる就航延期の「トキエア」

収支に影響は？

交通政策局 令和5年7月5日

質問
小泉 ● トキエアの資金面は、当面問題ない？

本会議で知事は、『就航延期によって収支の影響はあるものの、トキエアからは資金面では当面問題がないときいている』と答弁したが、何をもちって資金面では当面問題がないとしている？

答弁
空港課長

トキエアからは、今回の就航延期による影響について、まずは金融機関の協力を得ながら、手持ち資金と当面の支出の精査を行うとともに、今後の出資等の資金調達の見込みなどを総合的に判断した結果、当面問題ないと伺っている。

質問
小泉 ● トキエアは計画の甘さを感じるが、県の認識は？

延び延びになっているあいだ『収入がない、でも問題がない』というのが理解しにくい。新潟丘珠線が就航しても、すぐに【ドカンドカン】と収入があるとも、すぐに赤字になるとも思えない。

答弁
空港課長

トキエアの事業計画については、丘珠線(札幌市)を皮切りに順次路線を拡大していく計画となっている。現時点の1路線の運航スケジュールだけで全体を評価するのは適当ではない。

質問
小泉 ● 追加融資がないよう計画が成功することを望む

夢や希望もせて県が11億6,000万円の融資を決定したのだから、県としてもトキエアと意見交換をしながらしっかりと関わり、追加融資がないようにしていただきたい。

答弁
空港課長

トキエアは地域交通として県民の期待も高く、交流人口の拡大や新潟空港の活性化に寄与するもので、県では訓練飛行等の進捗状況の把握、経営状況のモニタリング等を行うとともに、札幌丘珠空港ビルディングや北海道エアシステム、陸上自衛隊の丘珠駐屯地等に直接出向き、早期就航に向けた協力要請を行ってきた。今後は、就航後の利用拡大に向けた取組も含めて、引き続き官民一体となって積極的な支援を行う。

公安委員会 令和5年7月6日

質問
小泉 ● オービスの運用状況、取締件数は？

本年3月に導入した可搬式速度違反自動取締装置(オービス)を運用し、生活道路や取り締まりが困難なところで、歩行者への被害、重大事故を防止する取り締まりをしているが、運用状況及び横断歩行者妨害の取締件数について伺う。

答弁
交通課長

オービス運用を開始した本年3月から5月末までの間、県内の通学路や生活道路において、通勤通学時間帯を中心に42回取り締まりを実施し、「87件」の速度違反を検挙。横断歩行者等妨害犯の取締件数は、本年5月末現在「2,285件」を検挙しており、前年同期と比べ104件増。

質問
小泉 ● 歩行者事故件数について

県内における、歩行者事故の発生件数及び、横断歩道における歩行者事故の発生件数について伺う。

答弁
交通課長

令和5年6月末現在の速報値で、歩行者事故は「266件」発生し、前年同期と比べ68件増。横断歩道を横断中の歩行者事故は「118件」発生し、前年同期と比べ28件増。

質問
小泉 ● 横断歩道での事故を未然に防ぐために...

横断歩道では、子供から大人まですべての年代の意識共有が大切と考える。歩行者が運転者に横断意思を伝える『渡るよサイン』について、県民にもっと広げ事故防止につなげるべきと考えるが、見解を伺う。

答弁
交通課長

運転者対策として、企業等に対する交通安全講習や、企業、団体等と連携した官民一体となった活動を推進し、横断歩行者妨害違反等の指導取締を推進するなど、横断歩道における歩行者優先意識の定着を図っている。『渡るよサイン』については、今後も、イベントの開催などあらゆる機会を通じた広報を行い、関係機関と連携し、横断歩道における歩行者優先意識の定着に努めていく。

可搬式オービスの運用状況は？
歩行者の保護に向けた県警の取組み